



vol.8 菊池華世さん

みなさんは、世界の第一線で活躍されている女性プログラマーの方々をご存知でしょうか？ JOI情報オリンピック日本委員会が実施する「先輩に聞く！プログラマーへの道しるべ」では、プログラミングやその周辺の技術や知識を使って活動している女性の先輩方に、お仕事内容や学生時代についてのお話を伺っていきます。

第8回目に登場いただくのは、[日本大学大学院総合基礎科学研究科](#)で、地球情報数理科学を専攻されている菊池華世さんです。聞き手はJOI情報オリンピック日本委員会理事で東京大学の山口利恵が務めます。ぜひみなさんの進路の参考にしてみてくださいね。



日本大学大学院総合基礎科学研究科で地球情報数理科学を専攻されている菊池華世さん

ロボットの話し方や好感度について研究

山口 菊池さんは修士の学生さんですが、どんな研究をしているのですか？

菊池さん 人間や環境にとって、一般的に“よい”とされる行動を促進するためのロボット研究をしています。

山口 ロボットと言ってもさまざまですが、二足歩行のような物理的なロボットの研究ですか？

菊池さん いいえ。ロボットの話し方と行動について研究をしています。例えば、エアコンの電気使用量を減らしたいときに、人間自身が温度を上げることも可能ですが、頭ではわかっているけど、体が暑いと感じている場合、なかなか行動に移せません。ロボットが勝手に温度を上げることで、人間に対して、温度が上がるのを受け入れさせます。炊飯器で「ご飯が炊けました」や、スマートウォッチで「座りすぎなので、立ってください」と話

すロボットがありますが、実際にはロボットが行動に移すことまではしません。ロボット自体が何かしらの行動をし、環境を変えて、その結果を人間に伝えるという研究をしています。

山口 人間に受け入れやすくする、という部分について詳しく教えていただけますか？

菊池さん 話すタイミングを見計らうことで、人間が「まあいいか」と思うよう促します。環境を変えた際に、「〇〇をやっておきましたよ」と事後報告すると、人間はその行動を撤回させようとはせず、受け入れることがあるようです。



研究内容を学会でも発表。

山口 他にも同様の研究をされているそうですね。

菊池さん ロボットの好感度が下がりにくい方法について研究しています。人間の行動を変えるためのロボットはたくさん存在しますが、そもそも人間がそのロボットを使わなくなってしまうたら意味がありません。ということは、ロボットにも好感度が必要だと考えており、話し方のアプローチについて研究しています。

社会問題に対し、プログラミングでアプローチ

山口 大学以外でもいろいろ活動しているようですが。

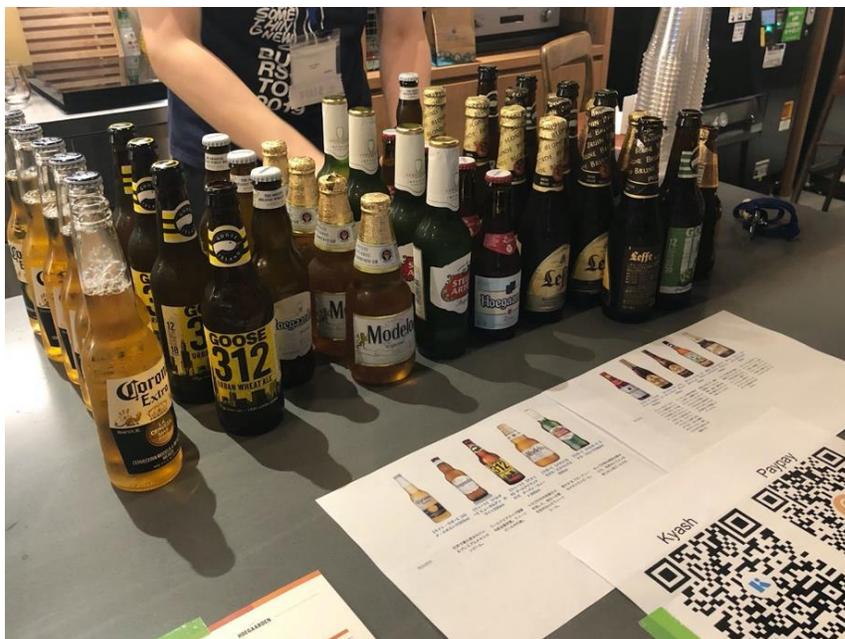
菊池さん 一般社団法人lightfulという、教育現場における問題の解決策を探る団体に所属し、エンジニアとして活動しています。大学1年生のときは、ひたすら勉強していたのですが、教育に関心のある学生とたまたま出会ったことをきっかけに、社会問題への関心が深まり、参画させていただくことになりました。プログラミングを書いたり、アイデアを出したりしています。



一般社団法人lightfulのメンバーとして活動中。

山口 プログラミングのなかで、印象に残っているものや、苦勞したエピソードはありますか？

菊池さん フランス発のエンジニアの育成機関「42 Tokyo」で取り組んだ、シェル（命令形のひとつ）をいちから作るプロジェクトはとても大変でした。先生などがおらず、作り方の説明なども一切ないので、出された課題に対し、黙々と取り組んでくしかありません。この「42 Tokyo」は、学費は無料なのですが、入るのが難しく、2ステップの試験をパスしてようやく入ることが許されます。その代わりに、大学では学ぶことのない内容を学べて、とてもいい経験になりました。



ビアハッカソンで、ビールがテーマのものづくりも。



「早朝活」というイベントを主催。

手に職を付けたいと、プログラミングを選択

山口 多岐にわたりプロジェクト等に参加されていますが、プログラミングはいつから始めましたか？

菊池さん 大学入学と同時です。実は受験に失敗し、1年浪人したにもかかわらず、不本意な結果に終わりました。受験時は、興味を絞ることができず、文系なども志望していたのですが、情報系にたまたま受かったので入学しました。合格したときに、その学科の専門に特化しようと思ったので、他の人よりも上手になりたいという気持ちが強かったです。

山口 プログラミングに特化しようと思った理由はなんですか。

菊池さん 高校生のおきから、手に職を付ければ、将来困らなさそうと漠然とされていて、技術系であるプログラミングを選択しました。最初はプログラミング初心者向けの学習サービスに取り組んでいたのですが、ゲームのようで楽しかったことを覚えています。それまで想像していた堅苦しいものとは違ったので、すぐにハマってしまっていました。

山口 どんなところがおもしろいと感じましたか？

菊池さん 自分の想像した内容を、すぐに実行して確認できるところです。せっかちな性格なので、結果が早く見えるのは嬉しいです。エラーが出たときは悩んだりもしますが、解決できたときはすっきりします。はじめの頃はエラーが出ると辛かったのですが、いまはだいたいこのへんを調べれば答えが出るだろう、など見当がつくようになってきました。

山口 小中学生の頃から、理系には興味がありましたか？

菊池さん いえ、アニメしか観ていませんでした（笑）。プログラミングに出会ってからは、アニメは一切観なくなってしまうと、休日もプログラミングか研究をしています。小学生の頃は、水泳、英語、中国語、学習塾、ダンス、絵画、習字……と毎日何かしらの習い事をしていましたので、とても忙しかったように思います。中学では吹奏楽部に所属していました。

山口 今後やってみたいことはありますか。

菊池さん 多くの人に使ってもらえるアプリや、新しい価値を生み出すようなアプリを作
っていきたいです。人のネガティブ体験を減らすサービスを作成したいと考えているの
で、困っている人を助けたり、社会にいい影響を与えられたらいいですね。今後もし就職
したとしても、エンジニアとして、社会問題などに関わり続けたいと思っています。

山口 最後に、未来のプログラマーへのメッセージをお願いします。

菊池さん プログラミングを学ぶことは、孤独なことだと思います。ですが、企業もプロ
グラミングを勉強することを支援していたり、プログラマーが集まるコミュニティも存在
したりします。「好き」という気持ちは行動するための動機として強いものなので、まず
は心の赴くままに、挑戦してみてください。

山口 本日はありがとうございました。

【インタビューを終えて】

大学受験の失敗を糧に、その道で上を目指して頑張り、大学に限らず外部の活動にも貢献
をするなど、ご縁のあった道で前向きに進んだ結果が実を結んでいらっしゃいます。この
ような前向きな進み方は、どんな道に進んだとしてもきっと人生のプラスになるんだらう
なと応援したい気分になる方でした。菊池さんを通して、最初から情報系を目指してきた
人もいるし、たまたま情報になってしまった人もいて、情報という分野の懐の深さあるな
あ、と感じたインタビューでした。(山口)

次回もお楽しみに。